

平成29年度予算をこう評価する

3月15日の本会議において、平成29年度一般会計予算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

区民の幸福実感向上に一層努力することを強く要望し、賛成

自 民 党



自由民主党荒川区議会議員団は、本予算の編成に当たり、区民生活の向上、安心・安全に暮らせる荒川区を目指し、約300の事項を積極的に推進していくよう要望した。この要望を踏まえ、区は、重要課題や区民生活に的確に対応した施策に財源を重点的かつ効果的に配分し、内部努力の徹底や事務事業全般の再点検・見直しを図っている。

主な施策について述べると、待機児童対策に関して、国家戦略特区として都市公園内での保育所設置を提案した区の功績、荒川方式の奨学金創設等による保育士確保を高く評価する。今後も、我が党が提案した幼稚園での預かり保育拡充等を求める。福祉関係では、親なき後対策として障がい者グループホーム等の整備に対しての区独自の補助金創設、安全・安心対策では、全児童遊園、広場等への防犯カメラ設置、産業振興では、若者を中心とする求職者と区内企業とのマッチングを図り、就労支援の充実を図ることを評価する。

これらの他にも、各分野の施策や事務事業を具体的に確認した。主なものは、様々な部署が連携したウォーキングの普及、伝統工芸ギャラリーのアピール、町会に配置したAEDの適正管理、全町会による防災総合訓練の実施、「家読」の推進、小中学生からの選挙啓発、ゆいの森アートフェスティバルの実施、手話言語条例の早期制定、認知症・介護予防に向けた会話型ロボットの試験的導入、蛍光灯の適切な回収体制の検討等々である。

改めて、東京女子医大東医療センター移転問題について、都に対する都有地売却をさせない働きかけと最悪の事態を想定した対応の準備、小中学校体育館及び生涯学習センター体育館への空調設備整備の早期実現、我が党が提示した8項目を配

慮した荒川遊園リニューアルの3点を求める。

新年度の予算執行に当たっては、区民の幸福実感向上に一層努力することを強く要望し、自由民主党荒川区議会議員団も、執行機関との良き緊張関係を保ちつつ、今後とも力強く西川区政を支えていくことを表明して、賛成の討論とする。



▲ゆいの森あらかわ

限りある財源を重点的・効果的に配分した予算を評価

公 明 党



平成29年度予算は、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向け、子育て環境の整備、介護予防の充実、防災まちづくりの推進等、区民の安全安心の更なる向上をはじめ、地域の経済や文化の活性化等に着実に取り組むことで、「くらし・子育て・安心予算」として編成された。

予算編成に先立って我が党が提出した要望書を踏まえ、限りある財源を重点的・効果的に配分したものと受け止めている。主な事項として、空き家対策の更なる推進、子育て女性のキャリアアップ講座の充実、胃内視鏡検診の早期導入、児童相談所の区移管の早期実現に向けた取り組みの推進等が予算化されており、我が党の主張が幅広く取り入れられていることを評価する。

また、予算特別委員会では、子どもの居場所づくり事業の周知、民泊の実態調査と民泊条例の早期制定、受動喫煙リスクの分かりやすい周知の徹底、街路灯や私道照明灯の早期LED化、ビブリ

オバトルの実施、いきいきボランティア制度の更なる拡大策、京成高架下の有効活用等、様々な要望や提案を行った。

これらの提案・要望を今後の事務執行や予算編成に反映させ、区民生活の向上に一層努力するよう要望し、賛成討論とする。



▲空き家のイメージ

暮らし応援、暮らしの底上げが不十分である

共産党

反対

一般会計予算に反対する。反対の第一に、社会問題になっている子どもの貧困に対する新規事業や拡充策が事実上存在しない。就学援助の入学準備金の前倒し実施等も検討し予算化すべきだった。また、年金の削減と保険料負担に苦しむ高齢者の負担軽減、生活応援策がなく、暮らし応援、暮らしの底上げが不十分である。第二に、従来型の超高層住宅建設を柱とした西日暮里駅前や三河島駅前北地区開発や市場まかせのマンション建設等は見直しが必要である。保育園、学童クラブ、幼稚園、学校の整備が引き続き課題である。第三に、在宅でも安心して暮らすためには介護保険だけでは不十分である。区としての横だし上乗せ等の計画が必要だ。以下、住宅耐震補強や家具転倒防止、感震ブレーカー等の設置、食料・水、簡易トイレ等の備蓄等への支援の充実、子ども医療費助成の入院時食事代の補助、特定整備道路補助92号線について、都への区としての意見発信、児童公園での禁煙の徹底やトイレの改善、日暮里図書館、スポーツハウス等の適切な改修、住宅リフォーム助成実施の決断、女子医大東医療センター移転問題について、足立区との話し合い等を求める。最

後に、小中学校タブレットパソコン一人一台体制の検証と見直しを求め、反対討論とする。



▲学童クラブの様子

区政の重要課題に積極的に取り組む予算配分であると評価

民進党

賛成

本予算は、区政の重要課題に積極的に取り組む予算配分であると評価する。

福祉・介護分野は、精神障がい者地域生活支援センター拡充等の施設整備費補助制度の新設を高く評価し、更なる地域における高齢者みまもりネットワークの構築、切れ目のないサービスの実施等を引き続き要望する。子育て・教育分野では、区立児童相談所設置に向けた人材確保・育成、関係機関との連携整備、産業観光分野では、事業承継の取り組みを要望する。防災施策は、24時間使用可能な屋外設置のAED新設を高く評価する。最後に、荒川遊園リニューアルは平日にも来園者を呼び込めるよう期待する。

結びに、子どもから高齢者まで「癒しの場と活躍の場のあるまち荒川区」の実現を目指し、鋭意取り組んでいく決意を表明し、賛成討論とする。



▲24時間使用可能な野外設置のAED

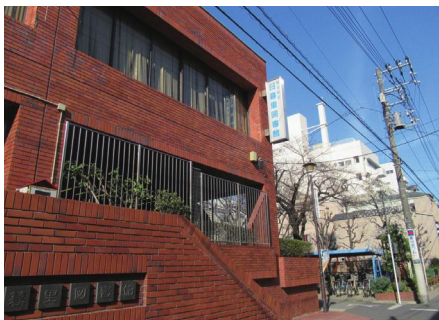
区民が豊かになり、生活が向上することを区政の基本にせよ
 女子医大病院移転は200床の確保を
元気クラブ



「松尾芭蕉の銅像より早く地域の不便の解消を」「俳句の街も結構だが事業者の生活向上に直結する施策を重視すべき」との声がある。区政の関心はどこにあるのか？観光・文化芸術も良いが、区民が食べ、生活することを応援する予算にせよ。

吉村昭文学館は現在の日暮里図書館のコーナーを充実し、ゆいの森の文学館と連携を。現場の保育士の意見を聞いて保育士確保策の改善を。東日暮里保育園跡地のふれあい館に保育園の併設を。

破綻した介護保険制度を取り繕う地域密着型サービスに反対。日暮里地区の学校・保育園不足と矛盾するマンション建設の再開発を止めよ。女子医大東医療センター移転の場合は、地域医療と災害時対応の可能な200床以上の病院を確保せよ。



▲日暮里図書館

国あつての地域であり、地域あつての国である。その点が蔑ろにされた予算である以上、反対
日本創新党



ふるさと納税の現制度を批判するのではなく、地域の魅力を広める機会として挑戦をすべきである。以下の3つの支出を是正することこそ、区が取り組むべきことである。1つ目は、タブレットパソコンの全校ばら撒きである。道具頼りの教育は廃止すべきである。2つ目は、朝鮮学校が9割を占める外国人学校保護者補助金である。区はこの問題に対し、正面からの議論や説明をしていない。3つ目は、保育園の大量増設である。子育て

を外部委託して女性を賃金労働の場に引きづり出す施策は止めるべきだ。

国あつての地域であり、地域あつての国で不可分の存在である。その点が蔑ろにされた予算である以上、反対討論とする。



▲小・中学校に導入されているタブレットパソコン

生涯健康都市及び安全安心都市の根底には、災害拠点病院の存在が前提である
改革の会



本予算で示されている主要施策である生涯健康都市及び安全安心都市の根底には、災害拠点病院の存在が前提である。女子医大東医療センター移転問題はこの前提を根底から覆すことになる。区は地域医療の崩壊を招かぬよう責任をもって最低でも災害拠点病院を区内に確保するとともに、現在地での経済活力を損ねないようにすべきである。荒川区基本計画に欠落している健康危機管理体制の整備、地域医療の充実についても、今後の区の重要施策として速やかに構築すべきである。

また、西川区長その他大学病院誘致の発言について、予算委員会で自身の発言に対して答弁ができないような発言を区民の前ですることは慎むべきと申し述べ、賛成討論とする。



▲東京女子医科大学東医療センター